

## 第2波の訪れか！ 先生方注意して下さい！

埼玉県歯科医師会 会長 大島修一

緊急事態には当たらないという人もいますが、今の状態はとても危険な領域に入って来たという思いでいます。ここ一週間の感染状況を見ると、1週間後の感染者数を想像するだけで恐怖を感じます。

今までに、歯科医療を介しての感染の報告はありません。歯科院内でのクラスターの報告もありません。しかし、県内の歯科医院においても、ここ10日間位で多くのスタッフの感染や濃厚接触の事例が報告されています。7月以前には、ほんの数例しか無かったことです。

そこで改めて、先生方に最大限の警戒をお願いします。

- ① 歯科医院は今までも、唾液・血液等体液に直接触れる機会が多いため、器具の滅菌を中心に高度な感染対策を行ってきたと言えます。これからも今まで通り、できる限りの感染対策（スタンダードプリコーション）をしてください。

併せて、これからは診療室等の環境に関する感染対策が必要です。待合室や診療室での密にならない環境や換気、シールドによる飛沫対策。使い捨て資材の導入や小まめなドアノブ、ユニットなどの消毒等、新たに考えられるコロナ対策を行ってください。

※ 今回決まった第二次補正の感染対策助成では、先生方が感染対策と考える費用は概ね含まれます。マスクや手袋はむろん、スリッパからエアコンのクリーニング等まで含まれますので、有効に活用してください。

- ② スタッフのオフの生活までは規制できません。しかし今、スタッフの個人の生活の中で感染等が起きているという現実があります。そして、新規感染者の中心が20才、30才代であることを考えるとき、そして、夏休みを迎え生活範囲が広がる事により、多くの人と接触する機会が増える事などを考えるとき、ぜひスタッフへ、生活における注意喚起をお願いしたいと思います。

何より大切なことは、スタッフとの関係を良好に保ち、小さな体調の変化や生活の中で気になる事など、いち早く報告がもらえる様な関係を作り、情報を院内で共有できるようにしておくことです。このことで、もしもの時にいち早く対応ができ、ダメージを最小限にとどめることができます。

- ③ 結果的に院内に、感染者や感染者との濃厚接触者が出た場合には、速やかに関係機関(保健所等)と連絡を取り、指導に従い対応してください。そして、院内スタッフのPCR検査や抗体検査をすることで、スタッフの心理的な不安の軽減や疑心暗鬼になる事無く、院内の安全の確認をする事が出来て、その後の対応が決められると思います。
- ④ 検査の結果、院内でのクラスターが確認された場合は、患者さん等にも秘密にする事無く情報公開等をして、休診等勇気をもって最善の策を取る事が、診療を再開したときに最も早く信頼を回復できる事と信じます。

◎今後、感染者が出た場合などの具体的な対応について、早急に郡市会等と相談しながら、会員の気持ちに最大限寄り添い、社会的に評価を得られる方向性を提案したいと思います。長い戦いになるかと思えます。ご協力よろしく願いいたします。